



×



民間複業人材活用による 実証実験最終報告会

～各プロジェクト報告書～

2023年（令和5年）1月26日

川西町総合政策課・総務課

各プロジェクトの設定

▶ タウンプロモーションプロジェクト

【複業タレント】 佐々木玲奈氏、大島彩乃氏、田久保好氏

▶ 駅周辺デザインプロジェクト

【複業タレント】 川西康之氏

▶ 採用改革プランニングプロジェクト

【複業タレント】 笠井博志氏

▶ 企業連携創造プロジェクト

【複業タレント】 美田翔二郎氏

▶ 総合計画共創プロジェクト

【複業タレント】 早川延寿氏



タウンプロモーションプロジェクト

【複業タレント】 佐々木玲奈氏、大島彩乃氏、田久保好氏

報告者：総合政策課 主事 鈴木大誠

1. 課題認識

▶ 定住人口減少

- ・元々の人口が少ない中、転出・転入ほぼ同数。
なかなか定住人口が増えないという実態がある。
- ・転出先・転入元はいずれも奈良近隣エリア。
近隣エリアからの転入を底上げしたい。

参考：川西町の人口移動（2021年）

	川西町から転出（192人／年）	川西町へ転入（190人／年）
1位	田原本	奈良市内
2位	橿原	郡山
3位	広陵・天理	田原本・天理

2. 目標設定

➡ 定住人口の増加

- ・川西町のことを、
住宅購入を検討しているファミリー層に知って頂き、
定住人口増加に結び付けること。

3. アプローチ

➡ ① ターゲット設定

- ・奈良県内から実際に、

川西町に移住をしてきた子育て世代にヒアリング

	Dさん (37)	Nさん (38)	Sさん (42)
元々住んでいたエリア	奈良市内	斑鳩町	田原本町
移住のきっかけ	子育て・夫	妊娠・育休中	第二子妊娠
重要視事項	<ul style="list-style-type: none">・ 駅近（徒歩10～15分）・ 分譲地（周辺も似た世帯層となるため）	<ul style="list-style-type: none">・ 駅からの近さ・ 治安が悪くないところ・ 分譲地	<ul style="list-style-type: none">・ 駅からの近さ・ 妻の実家の距離・ 小学校の距離
移住先の探し方	<ul style="list-style-type: none">・ SUUMOで気になった物件があれば不動産屋に連絡・ 建売業者・ 工務店経由・ 住宅展示場	<ul style="list-style-type: none">・ SUUMOを見て気になった物件があれば不動産屋に連絡・ まちを歩いて空き家を探す・ 建設会社経由	<ul style="list-style-type: none">・ SUUMOを見て気になった物件があれば不動産屋に連絡・ 建売業者

3. アプローチ

➡ ②ターゲットヒアリングで判明したこと

- ・ **家探しのきっかけは、子育て**

- ➡ 妊娠・出産・育児など「**育児に対して最適な家探し**」を
きっかけに移住を考える

- ・ **川西町は移住先の第一候補ではなかった**

- ➡ 元々、移住先の第一候補は郡山・天理など周辺の人気エリア。
そこで良い物件がない、治安の面で心配、などの理由から、
当初は候補になかった川西町にたどり着く。

(川西町への特段の思い入れやこだわりはない。)

3. アプローチ

➡ ②ターゲットヒアリングで判明したこと

- ・ **ターゲットには、不動産会社からの情報の影響が大きい**

➡自分達で、SNSなどで積極的に情報収集するわけではない。

不動産業者・建設業者からの案内をきっかけに川西町を認知する。

- ・ **「静か、治安の良さ」が他エリアとの差別化ポイント**

➡駅から近くに住宅地が広がっていて、道が広々して車通りが

少ない。そのため子供が一人でも安心して帰ってこれる等、

親目線からみた川西町のメリットが多く聞かれた。

➡天理や郡山のように駅前が賑やかではないということが、

親目線で言うとどかで治安が良いというメリットに転換される。

3. アプローチ

➡ ③川西町の強みから、ターゲットへのアプローチ手段選定

- ・ 住民が暮らしていて感じている町の魅力（強み）は、
 - ➡ **自然環境、田園風景**
 - ➡ **治安の良さ**
 - ➡ **上下水道の整備状況**
 - ➡ **町職員の対応**
- ・ これらのヒアリングから、ターゲットに川西町を移住先としてまず知ってもらおう術として、
 - ・ **郡山・天理など周辺地域の不動産業者に、**
 - ・ **川西町を魅力的に案内してもらえらるような、**
 - ・ **チラシを作る**のが良いのはという結論に達する。

3. アプローチ

➡ ④コンセプト設定

- ・ターゲットに「川西町の“何”を伝えるべき」か。
他エリアと差別化できる「子育てにとって良いまち」のポイントを
全員でアイデア共有し、複業タレントと職員で協議し決定。

コンセプト

空と緑のはぐくみTOWN

子育てしやすく、こども達が安心して歩けるまち。川西町

3. アプローチ (④コンセプト設定)

設備・施設

- ・平成25年に建て替えた明るくて温もりのある小学校
- ・保育園1園・こども園2園 選べる3園
- ・約40種類の充実した地域総合型スポーツクラブ「カワスポ」
- ・ファミリープールや野球場、テニスコートが利用できる「まほろば健康パーク スイムピア奈良」
- ・子育て支援センターの横に広がる全面芝生の運動公園
- ・学童保育新設中！小学6年生まで受け入れ

行政

- ・子育て支援センターで広げやすいママ友の輪
- ・子育てイベント充実（wakuwaku+1、スマイルフェスタ、）
- ・四季折々のイベント開催（さくら祭り、夏祭り、文化祭、マルシェ）

環境

- ・令和4年リニューアルの綺麗な駅前広場
- ・安心して運転できる幅員6m街路
- ・5.93km² 平坦に広がるコンパクトな町
- ・すぐそこに広がる田園風景（田園率35.51%）

■特に、結崎駅前の整った様子、こども園などの充実した施設、のどかな田園風景は大きな強みとしてビジュアルでも見せていく

4. 成果

- ▶ 目標達成のための具体的な方法
 - ➔ 「隣接市町の住宅購入検討者に不動産会社から川西町をご紹介頂くためのチラシの作成を行う」と決定し、チラシの制作に移る。

4. 成果

作成中



空と緑のはぐくみTOWN 川西町

KAWANISHI

え、川西町が子育てしやすいって聞いたんだけど？

川西町に家を建てよう！
その8つの訳は →

充実の子ども向けサービス・キレイな子ども園

通学通学に便利なエリア・明るいうち学習環境

こども園 駅前広場 小学校

奈良県川西町
<https://www.town.nara-kawanishi.lg.jp/>



表紙



子育てしやすく、こども達が安心して歩けるまち。川西町

その8つの理由

環境 Environment

01. **子どもやパパを毎日車で送り迎えする時間を節約できる / 整備された駅近の住宅街**
令和4年にリニューアルされた駅前広場のすぐ近くに住宅街。治安がよく通学も安心。

02. **運転がニガテなママでも安心して運転できる / 広々とした平坦な道**
安心して運転できる幅員6m街路。車はもちろん、歩いてお出かけも散歩もしやすい。

03. **高い建物もなく、青空いっぱい広がる風景。空気もきれいのどかな風景**
田園率35.51%。交通量も少なく騒音もなく、自然も多く癒されのどか。

施設 Facilities

04. **待機児童なし / 働くママもこどもも安心 保育・教育施設の充実**
平成25年に建て替えた小学校。保育園1園・こども園2園。小学生の学童保育施設中。

06. **小さな町だからどこに行くのも近くて便利 / 病院・公共施設が近い**
小児科や子育て支援施設も近くにあり万が一の時の安心。役場もスーパーもすぐ近くに。移動時間の短縮で家族の時間をゆっくりと。

05. **健康的に暮らす。家計の負担が少なく続けやすい / 体を存分に動かせる環境**
半数以上の子供が通う「カワスポ」の選択肢は40種類以上 / 金費もリーズナブル。プール・野球場・テニスコートも / 家族みんなで健康長生き

行政 Administration

07. **他では半日かりだった役所の手続きも川西町なら早い / 物理的にも気持ちにも。役場と近い**
子育てに関する意見をすぐにキャッチアップ。積極的に改善。

08. **日傘を通して楽しめるイベントが盛りだくさん / まちのイベント多数開催**
子育てイベント充実 / 気球に花火に盛りだくさんの夏祭り。マルシェや四季のイベントで充実した川西町ライフ

空と緑のはぐくみTOWN 川西町

中面

4. 成果

▶ チラシを届けるべきペルソナの決定

- ▶ ・ 30歳 子ども1人(2人以上を希望)
- ・ 県内車通勤者、共働き(車を利用するので、道が狭いのは避けたい)
- ・ 広さがある注文住宅(4LDK)を希望
- ・ 休日は子どもと公園かイオンに行く。運動系の習い事をさせたい。
- ・ 治安が良い街を好む。情報収集はインスタを眺める程度。

▶ チラシで表現すべき街の

ポジショニングとブランドアイデンティティを確認

- ▶ ・ 駅近の住宅街・・・将来の通学も安心。子どもの送り迎え不要。(合理的)
- ・ ほどよい田園感・・・子どもがのびのびと育っていく印象付け。
- ・ 明るい雰囲気である・・・空が広い
- ・ フラットな街並み・・・ベビーカーを押しやすい

5. 今後の課題及び取り組み方針

▶ 今後の課題

▶ チラシを不動産会社に実際に活用してもらい、成果を出す（転入増加）

▶ 短期的取り組み方針

- ・ ただ住宅検討者にチラシを渡すだけでなく、具体的な説明方法を定め、不動産会社の方へレクチャーすることで、よりチラシの効果が発揮され则认为る。

（例）どのような志向性の方が川西町に合っているか。

チラシをどのように活用して頂きたいか。

▶ 長期的取り組み方針

- ・ 最前線で川西町の魅力を伝播して頂く不動産会社の方に、川西町の魅力を知ってもらう。
 - ▶ 川西町のファンになってもらう。
- ・ 単発的ではなく、継続的に地元の不動産会社とのコミュニケーションを図る。
 - ▶ 川西町を応援してもらえらる関係性になり、実際の生の住宅検討者の声を集め、チラシのブラッシュアップ等も継続的に行っていく必要があると考える。



駅周辺デザインプロジェクト

【複業タレント】川西康之氏

報告者：総合政策課 主事 森田幸宏

1. 課題認識

▶ 魅力ある「川西町」の創出

- ・ 少子高齢化、人口流出などの問題を解決し、いかにして 住んでみたい、住み続けたい川西町を創出するのか。

▶ 結崎駅周辺の利便性向上

- ・ スーパーおくやま結崎店の空きスペース活用
➡ おくやまの考え（スペース有効活用）と、町長の想い（駅前での賑わい創出）の融合
- ・ 駅前広場の利用
➡ 結崎駅が開業したが、駅舎横の併施設設検討、県道拡幅等による更なる利便性向上には時間が掛かる。

2. 目標設定

➡ スーパーおくやま

- ・ 空き店舗を整備し、初期投資額を抑えて既存設備を活用した賑わい空間づくりの整備デザイン

➡ 店舗入り口付近の賑わいづくり、既存設備の活用によるサードプレイス醸成。

➡ 駅前広場

- ・ 交通機能優先ではなく、歩行者空間・公園・古墳という歩行者優先の空間構成

➡ 利便性を更に高め、波及効果を点から面へ拡大

駅舎完成をきっかけに、おくやまや駅前を中心に
「歩いて楽しい町」を創出

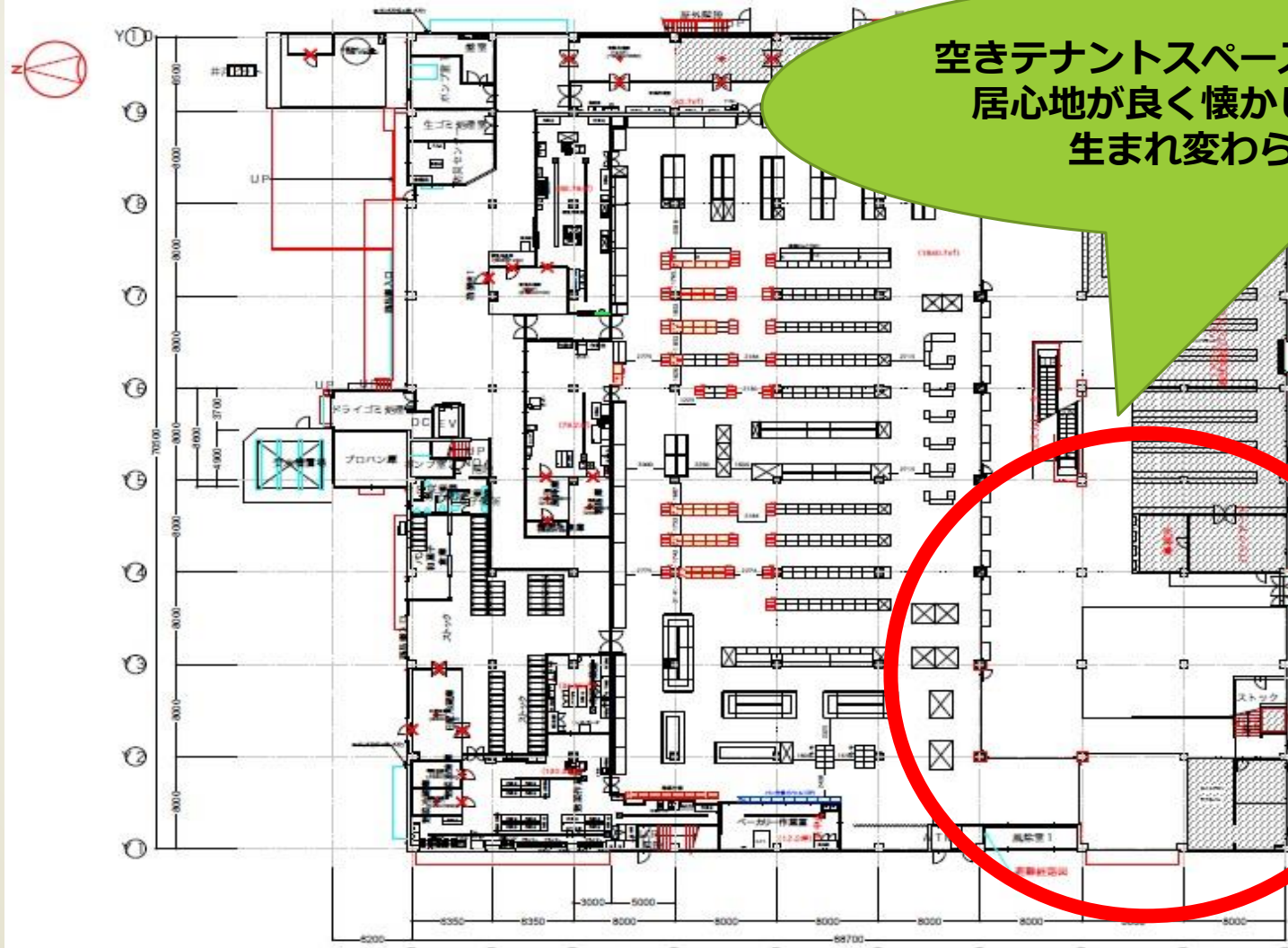
3. アプローチ

■ ターゲット ➡ 町内住民および買い物利用者

- ・ おくやま西側（駅側）は歩行者や自転車利用者が多いため、シャッターを開放し、外から見られる視点を重視
- ・ 見られる環境を造ることで、マナー向上へ繋げる
- ・ 小学校で不要になった机や椅子を再利用し、あらゆる世代にとって懐かしい空間を創出
- ・ 人工芝を活用し、「自由なスペースである」とひと目で視認、理解してもらおうようイメージ
- ・ 地元の理解を得ながら、子どもの安全を考慮し、駅前の雰囲気を壊さず人が留まれる場所を創り出す
(ベンチ、遊具などの設置)

3. アプローチ

スーパーおくやま結崎店 1階平面図

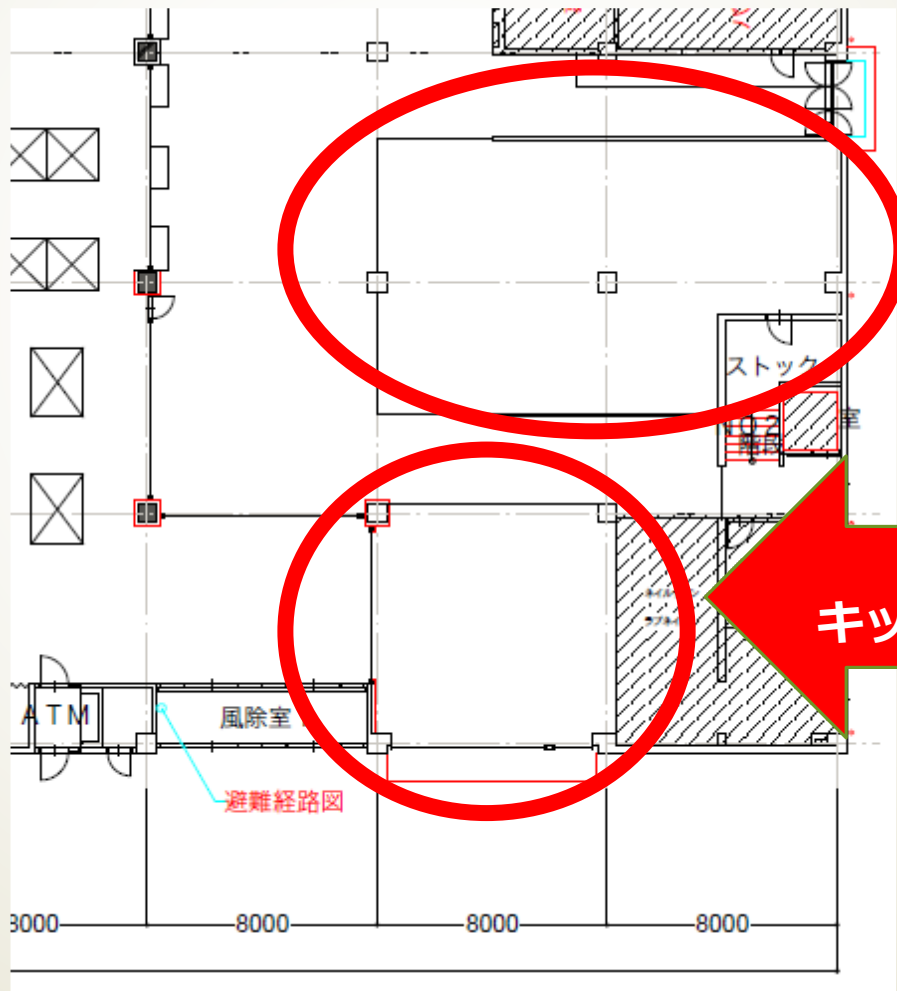


空きテナントスペースを有効活用し、居心地が良く懐かしいスペースに生まれ変わらせたい。

1階南西
スペース

3. アプローチ

- スーパーおくやま結崎店 キッチンスペース+広場スペース

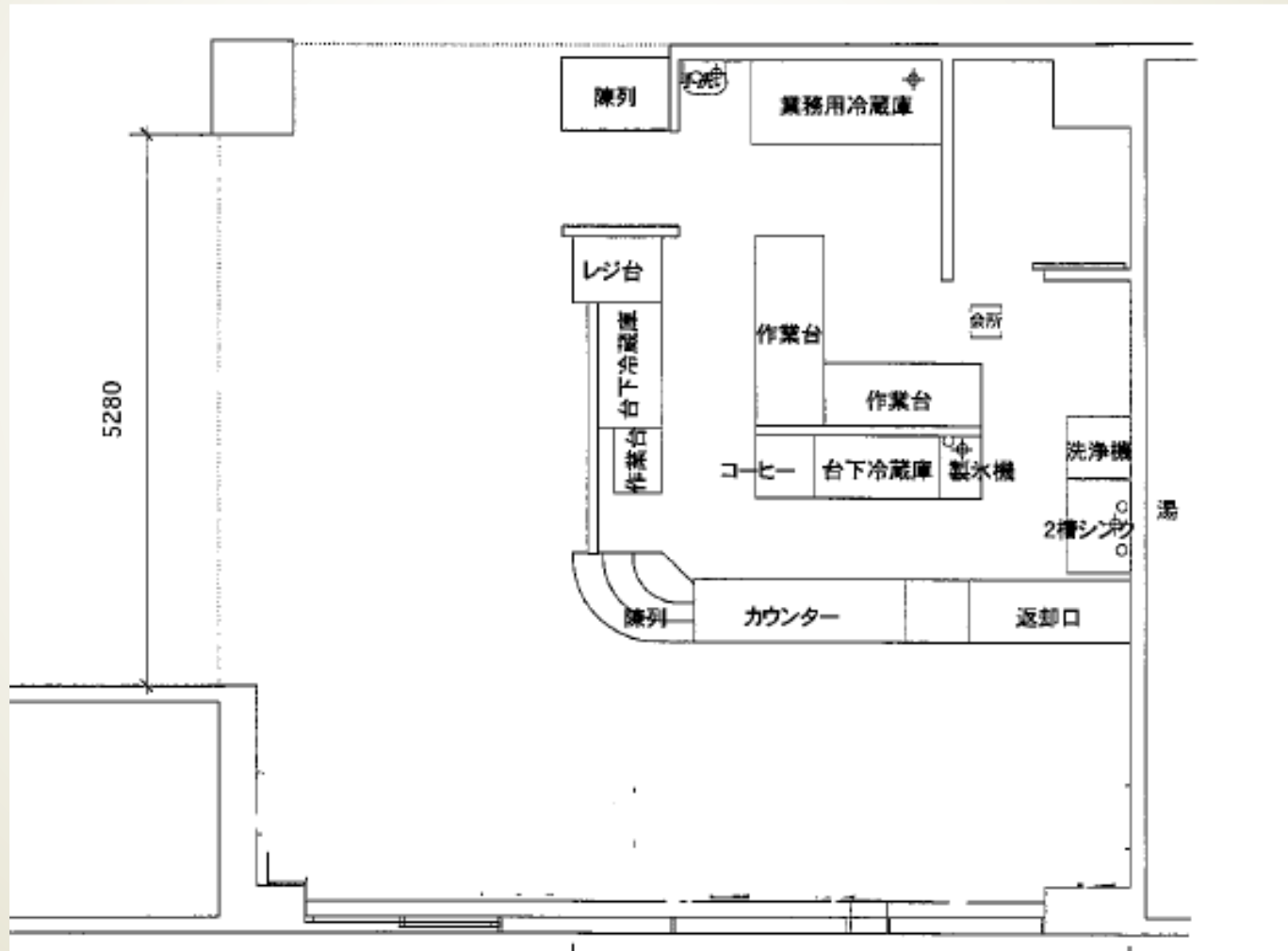


1階
広場スペース

1階
キッチンスペース

3. アプローチ

スーパーおくやま結崎店 キッチンスペース



3. アプローチ

➡ スーパーおくやま結崎店 キッチンスペース



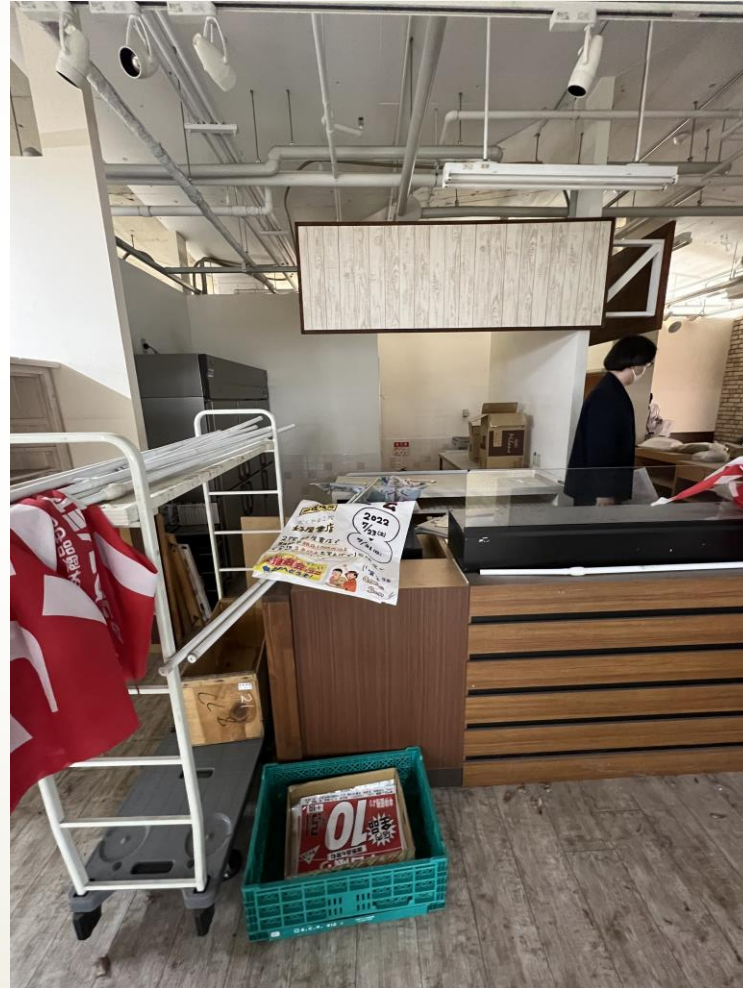
3. アプローチ

➡ スーパーおくやま結崎店 キッチンスペース



3. アプローチ

➡ スーパーおくやま結崎店 キッチンスペース



3. アプローチ

➡ スーパーおくやま結崎店 広場スペース



3. アプローチ

スーパーおくやま結崎店 屋外スペース



3. アプローチ

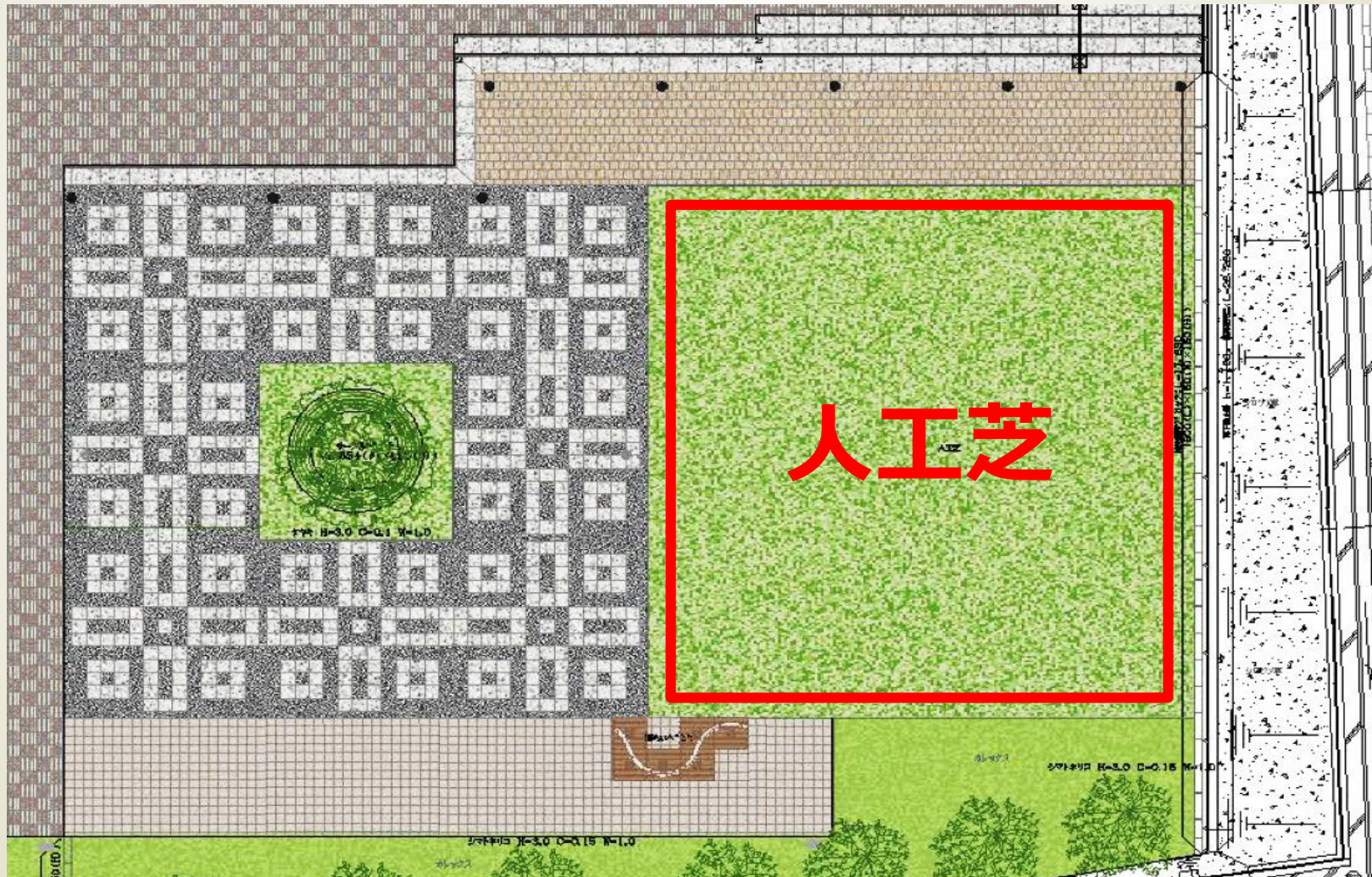
➡ 結崎駅前広場平面図



遊具設置検討箇所

3. アプローチ

➡ 結崎駅前広場平面図（検討箇所拡大）



3. アプローチ

➡ 結崎駅前広場平面図 現場写真



3. アプローチ

➡ 結崎駅前広場平面図 現場写真



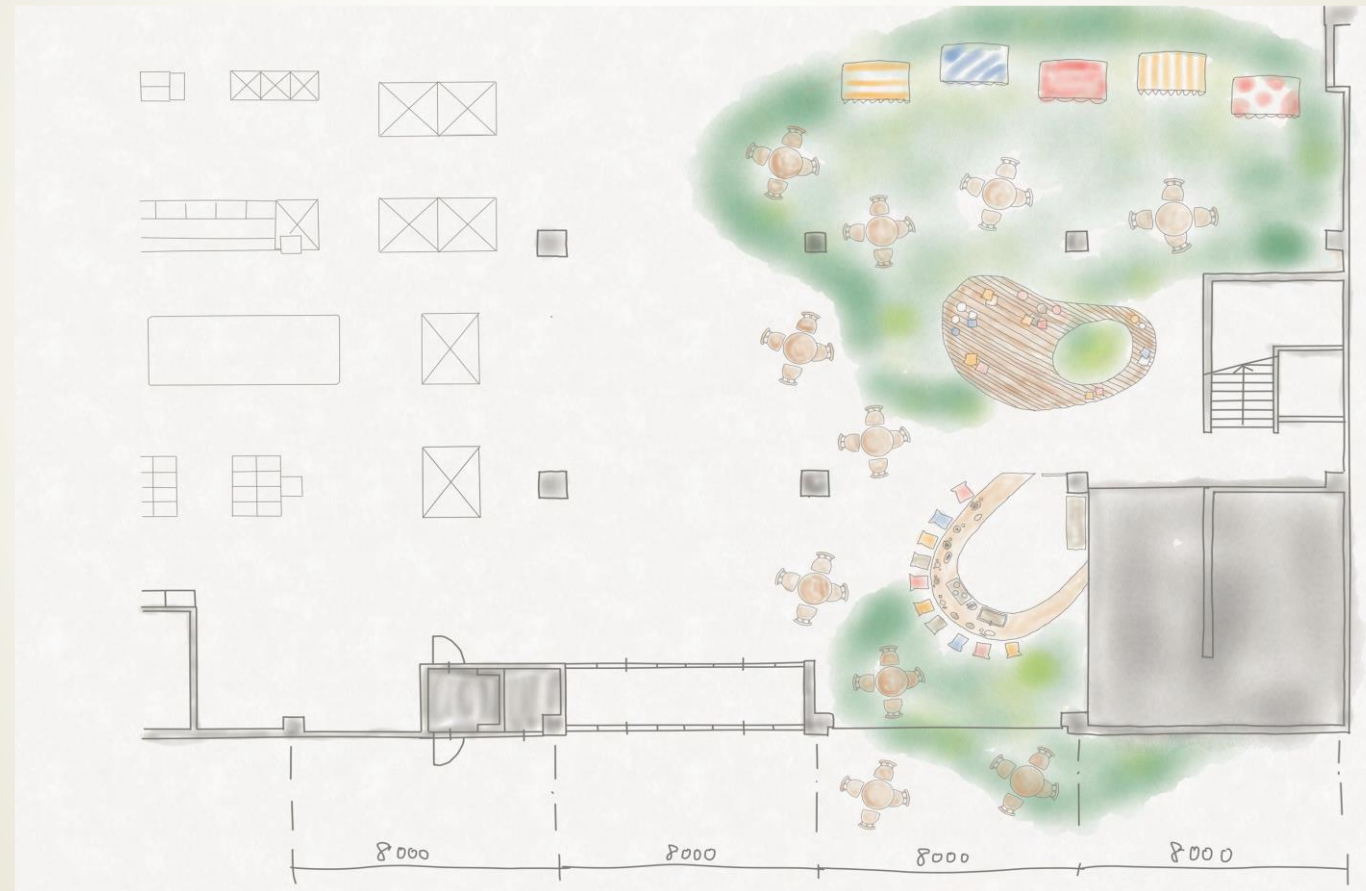
3. アプローチ

➡ 結崎駅前広場平面図 現場写真



4. 成果

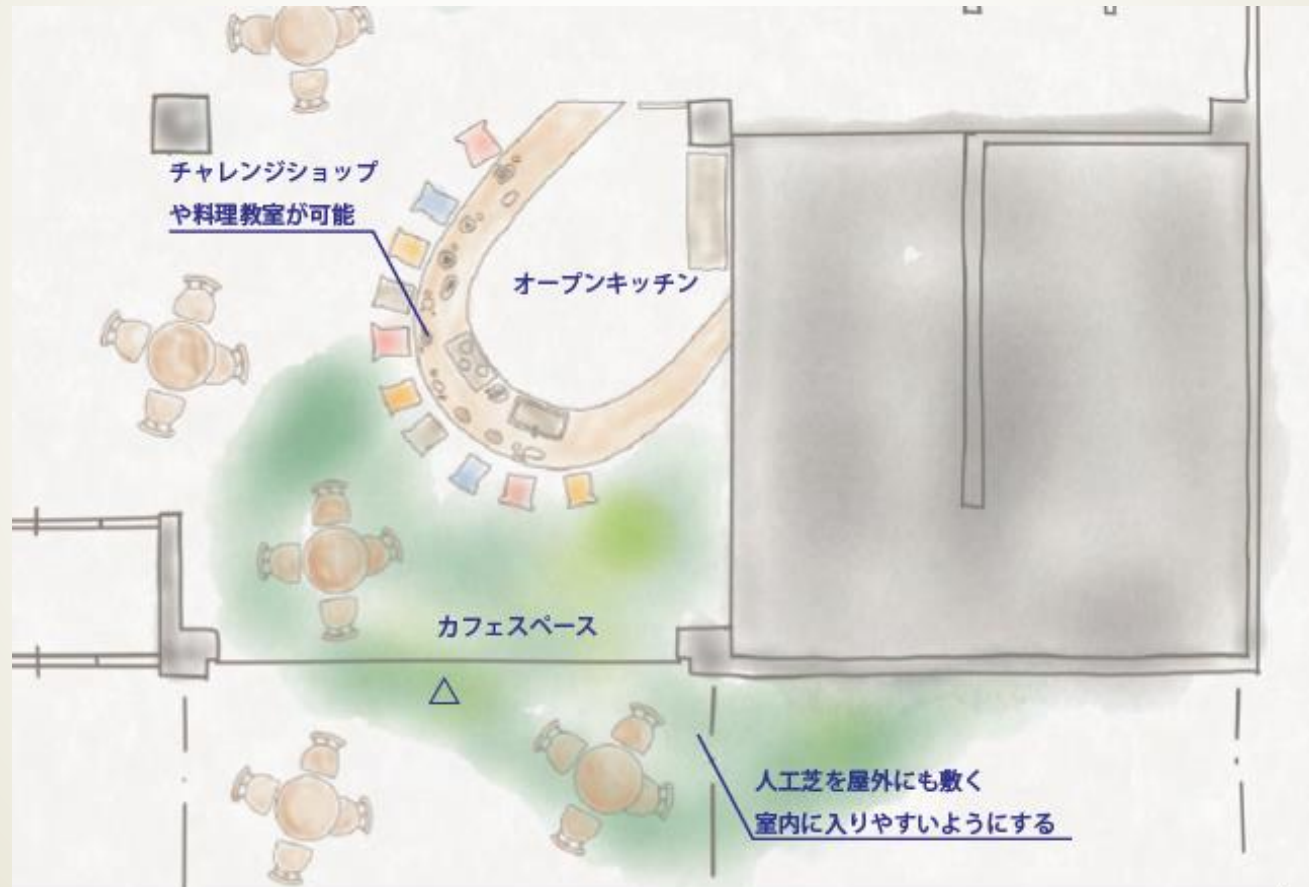
スーパーおくやま結崎店 計画図 (イメージ)



- 駅前の芝生、人工芝、古墳がシンボルであるように、
おくやまの中に芝生広場をつくるといったコンセプト

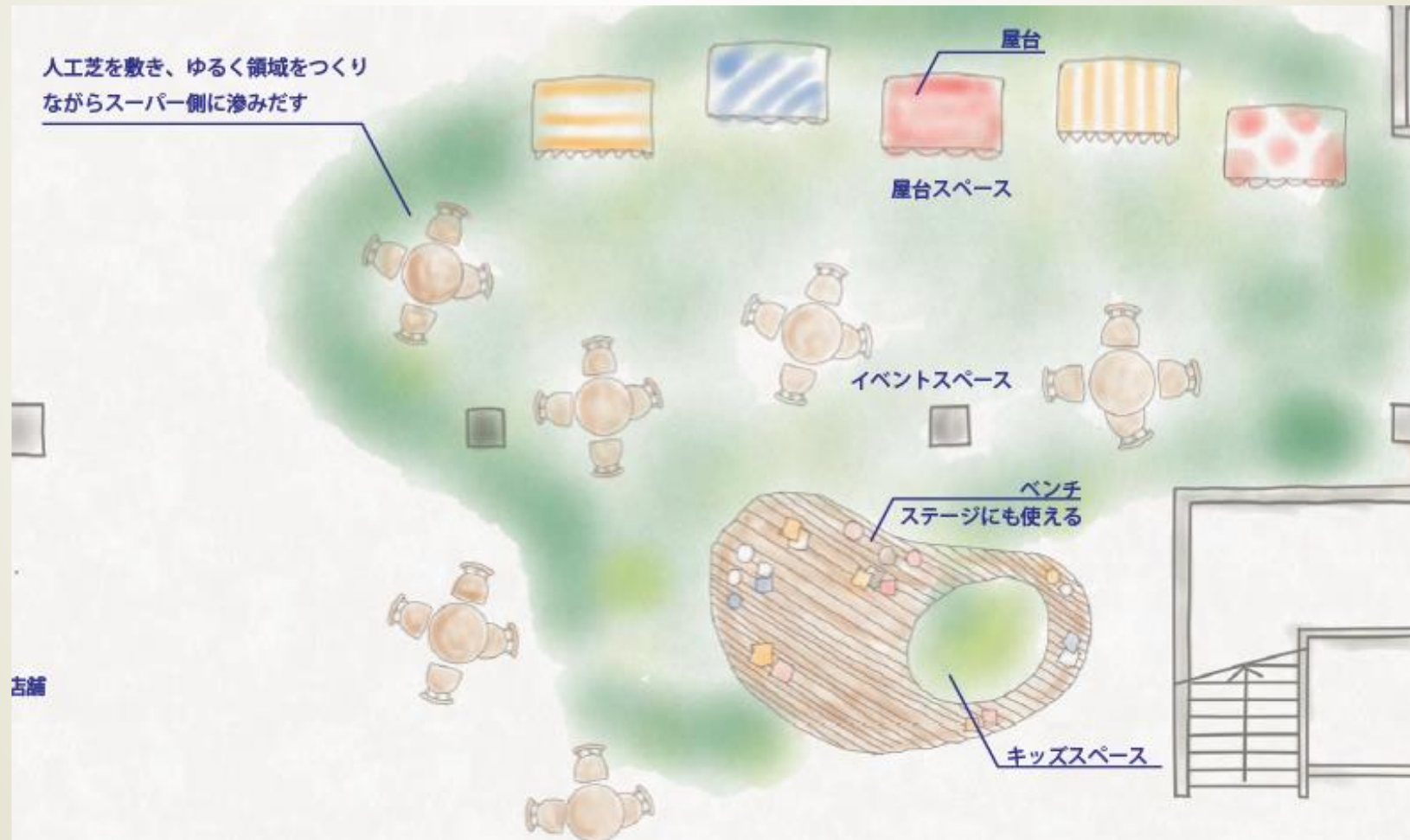
4. 成果

スーパーおくやま結崎店 計画図 (イメージ)



4. 成果

スーパーおくやま結崎店 計画図 (イメージ)



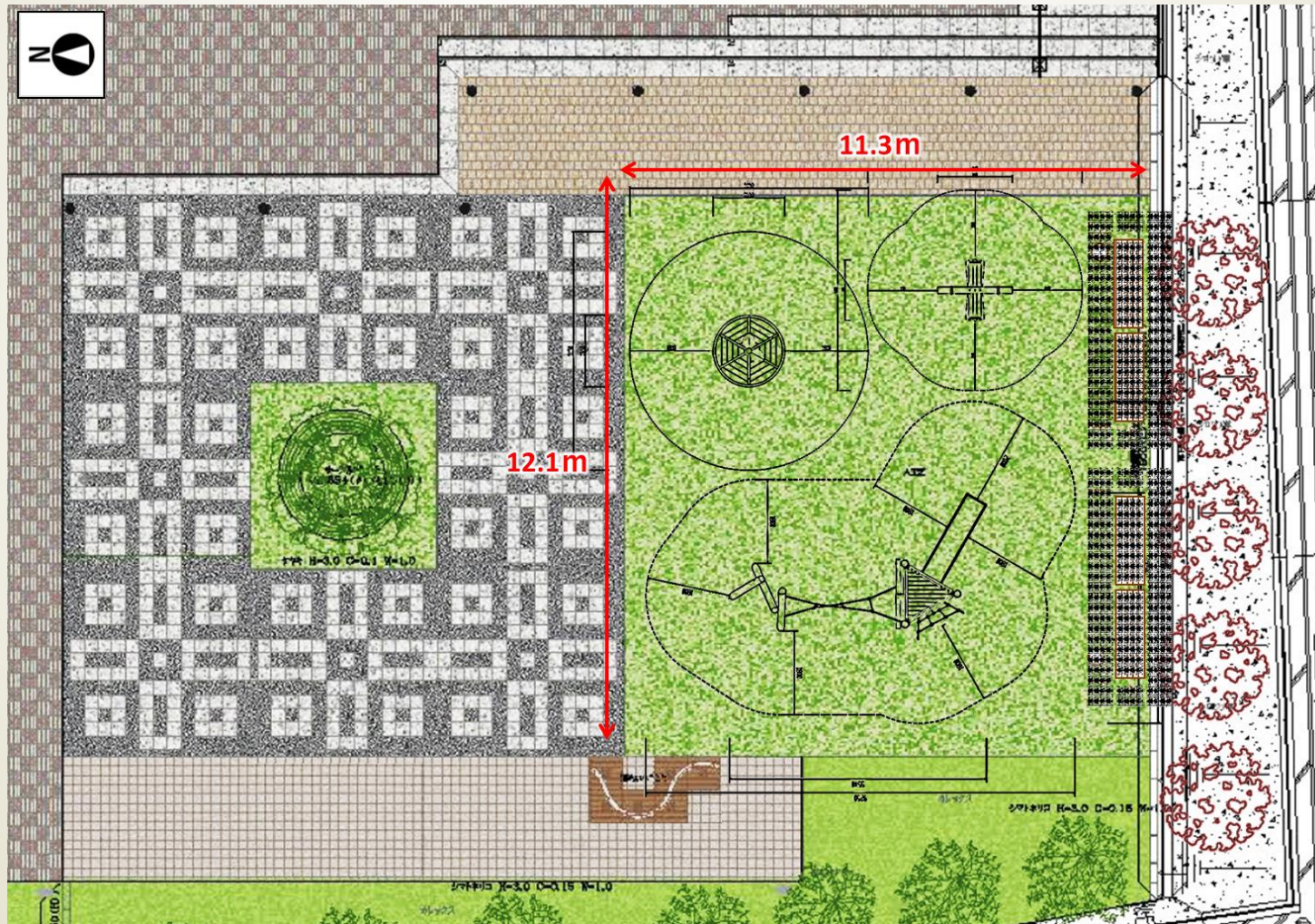
4. 成果

結崎駅前広場 配置計画図 (イメージ)



4. 成果

➡ 結崎駅前広場 配置計画図 (イメージ)



4. 成果

結崎駅前広場 配置計画図（イメージ）



○駅前広場の施設の一部として景観・空間になじむ、遊具シリーズ・素材を採用

○町内の他の公園には無い・駅前広場にしか無い、遊具機種を選定

○元気に遊ぶ子ども達をくつろぎながら見守れる・休憩場所として利用できる、ベンチ・サイドテーブルを追加設置。

4. 成果

結崎駅前広場 設置遊具 (イメージ)

複合遊具



4. 成果

結崎駅前広場 設置遊具（イメージ）

スプリング遊具

内定



回転遊具

内定



4. 成果

▶ 複業タレント川西氏コメント

- ・ 低コストで、町民およびおくやま利用者にとって 新しい居場所を形成するデザインとした。
- ・ 一休みする空間が無い場所に、自宅、学校、職場 でもないサードプレイスが形成されるきっかけに。
- ・ 川西町内で小さな経済圏が作れたらいい。
「遊びを自分たちでつくるまち」として打ち出し、駅前広場を中心に楽しいまちを創り出す。

5. 今後

▶ 課題

- ・ 公共空間の維持管理
- ・ マナー向上
- ・ 町民の声をどう活かすか

▶ 町民が「我が事」として認識し、企画運営等に
巻き込んでいく必要あり

▶ 取り組み方針

- ・ 歩いて楽しい川西町

▶ 駅舎～広場～公園～スーパーおくやま～街路など
シームレスに都市空間の維持・ブランド価値向上に取り組む



採用改革プランニングプロジェクト

【アドバイザー】 笠井博志氏

報告者：総務課 課長補佐 福田宗宏

1. 課題認識

■ 現在の川西町の職員採用

- ➡ **採用戦略が明確ではなく、同じタイプの人材選考を毎年繰り返している。**

■ 現状抱える課題

- ・ **企画力のある人材を採用したい**
 - ➡ 定期的な業務を確実にミスなく行える人材に加え、企画力・実行力を備える人材を求めたい。
- ・ **採用試験の評価方法は、これまでの公務員として必要な人材を採用するための着眼点を踏襲している**
 - ➡ 採点方法の変更を検討する必要がある。

1. 課題認識

- ▶ 課題解決のため、月3～4回のミーティングを実施。



2. 目標設定

- ➡ **「川西町」として求める人材を明確化**
- ➡ **選考フローを、求める人材を獲得する流れに修正**
- ➡ 入庁した職員にインタビューを行うことで、採用した職員の人物像にアプローチし、求める人材像を明確にするとともに、それに沿った採用フローを組み立てていく。

3. アプローチ

→ 職員インタビュー

【インタビュー内容】

- ①現在の配属先と業務内容
- ②地方公務員を目指した理由
- ③川西町を志望した理由
- ④川西町をどのようにして知ったか
- ⑤イメージも含め、どの辺りに
他の自治体と川西町の違いを感じるか
- ⑥どの辺りに入庁前と入庁後のギャップを感じるか

3. アプローチ

▶ ヒアリングによる分析（一部）

Aさん

自分自身のライフプランを
しっかり考えている。
安心して生活、勤務していくため
役場を選択。

Bさん

35歳までに一生働ける場所を
探していた。
自分の生活の基盤を決めたい。

Cさん

ご時世的に、
一般企業で働くことが不安。
地元で働きたいと考えたとき、
公務員を考えた。

- ➡ 全体を通して、安定を求めたライフプランを重視し、公務員という職業を選択。
- ➡ 採用した職員の傾向として、真面目で、求められた問題をミスなく実行するこれまでの求める職員像を兼ね備える対象者が多く、従来の採用方法に一定の成果が認められる。

3. アプローチ

▶ これまでの選考フロー

個性よりも、「他社との協調性があるか」、「指示に対して忠実であるか」、「人と接する時の言葉や態度が温厚か」などに重点を置く。

▶ 選考フローの見直し

- ・ 未来型の職員として、常に新しいことを創造する企画力とそれを実現する実行力を備える人材を求める。
- ・ 従来型 + 未来型の良い点を融合させた人材を分析できる手法としてSPI試験の導入し、個別に実施する試験について、評価項目を再検討する。

4. 成果

▶ プロセスの改善

- ・ 本町が求める人材像を明確化し、採用担当者内で共有、周知を行う。

▶ 1次試験の選考基準

- ・ 「対人・協調」、「活動・課題遂行・企画」などの項目を選考基準に加え、優先順位をつけることで選考基準の適正化を図る。

4. 成果

➡ 個別試験（論文）

公務員として最低限必要な国語力及び文書力を備えているかを見極める配点基準に変更する。

➡ 個別試験（面接）

「服装・態度」「言語・表現」「理解・心情」など、主に面接時における受験者の印象に重点があったが、「志望動機・自己能力」など、より人間性に着眼した評価項目に追加する。

➡ 個別試験（集団討論）

「話す力」「聞く力」に加え、リーダーシップやメンバーシップを見極め、「貢献性・協調性」を評価項目に追加する。

4. 成果

▶ 令和5年度4月入庁職員選考結果（R4.9月実施）

採用予定 人数	応募者	第1次 受験者	第1次 合格者	第2次 受験者	第2次 合格者	第2次合格 辞退者	採用人数 （予定）
2名程度	69	37	19	12	4	2	2

※追加募集実施

▶ 選考結果からの学び

試験を実施するたびに、結果と要因を積み重ね、傾向を掴むことが重要。

5. 今後の課題及び取り組み方針

→ 今後の課題

- ・ 欲しい人材を採用する体制作り
 - ・ 採用計画設計の充実
 - ・ 職種別の採用プロセス設計
 - ・ 新たな選考方法の構築
- 「試験回数/実施時期/実施内容」の最適化
- ・ 母集団形成に向けた採用情報発信力の強化
 - ・ 採用担当者の工数不足

5. 今後の課題及び取り組み方針

→ 取り組み方針

- ・ 採用人数から逆算した採用計画の立案
- ・ スカウト型採用へのトライ（特に専門職）
- ・ 若い力、参画型まちづくりをメインとした告知
 - ➡ SNS活用、若手インフルエンサーの活用
- ・ 奈良県内における専門学校や地元企業との採用連携
- ・ 各職種ごとの採用プロセスの抜本的な変更
- ・ 企画力を試す採用プロセスの実施
- ・ 採用チームの増強
 - ➡ 主担当を軸とし、もう1名若手アシスタントが必要



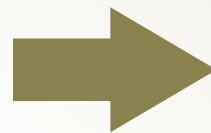
企業連携創造プロジェクト

【複業タレント】 美田翔二郎氏

報告者：総合政策課 主事 鈴木大誠

1. 課題認識

町と企業との
コミュニケーション不足



町と企業との
共通課題の解決に向けた
連携がとれていない

2. 目標設定

リンクする課題を共に解決していける『場』を作る

企業の課題（例）

人材確保

周辺環境の整備

外国人材の受入れ



行政の課題に置き換えると...

交流人口

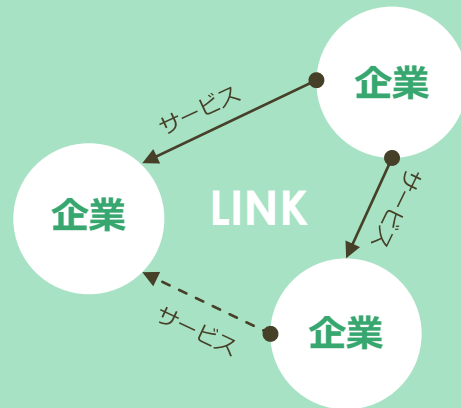
生活環境

ダイバーシティ

3. アプローチ

町と企業が『付加価値の高い時間』を共有

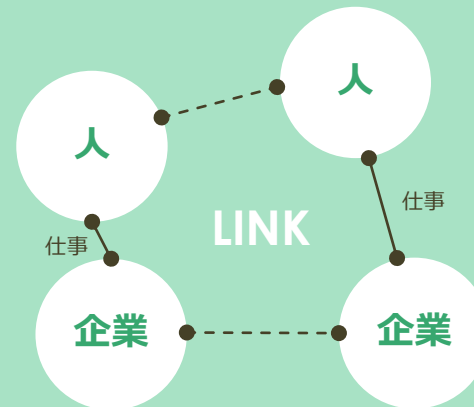
参加企業の「サービス」をつなげる



企業の
サービスマッチング

➡地域経済の循環

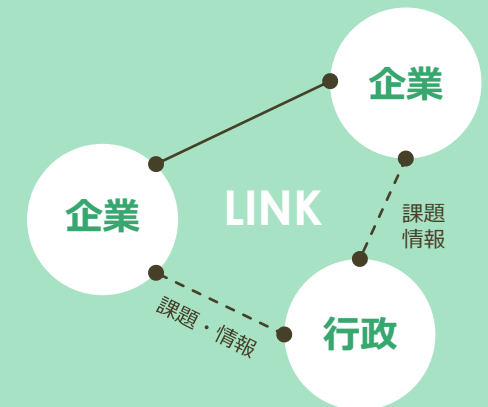
「人」や「会社」をつなげる



人材教育
採用（国内・国外）

➡雇用促進・交流人口

町と企業の「課題」「情報」をつなげる



協働で課題解決

➡災害対策・環境整備

4. 成果

『川西町まち・企業リンク』を設立 → 総会を開催

Ph.
1

課題抽出を目的に町と一緒にブレストを行う

Ph.
2

川西町内の企業2社に対してヒアリングを行う

Ph.
3

川西町内の企業へアンケートを実施

Ph.
4

町と企業のシェアリングプラットフォーム構想の方針決定

Ph.
5

『川西町まち企業リンク』を開催 (2022年11月30日)

【実施内容】

- ・ファシリテーター自己紹介
- ・グループ内自己紹介（会社名、名前、事業内容、どのあたりから通勤、趣味など）
- ・頭の体操
- ・グループ討議（企業として町に取り組んでほしいこと/川西町に対して聞きたいこと）
- ・グループ毎発表&町長回答
- ・締めの挨拶（町長）
- ・記念撮影

川西町まち企業リンク Kawanishi Town & Company Link



Purpose

近年の企業活動に関する課題である人材確保、周辺環境の改善、外国人材の受け入れ、地域貢献との関わりなど、これらの課題は企業で解決するよりも、行政や企業同士で連携することで、効果的・効率的に解決できることが考えられます。
それぞれの課題を解決することで町や企業の発展していくことを目的としています。

Plan


- ①参加企業の「サービス」を繋げる
→企業のサービスマッチング
- ②川西町で働く「人」や「会社」を繋げる
→人材確保、採用（国内、国外）
- ③町や企業の「課題」や「情報」を繋げる
→町の課題を共有し効果的解決、災害対策、異業連携



【美田氏所感】

- ①冒頭の自己紹介までは硬い雰囲気でしたが、頭の体操あたりから前のめりになって議論に参加するメンバーも出てきました。時間的プレッシャーも与えるために時間管理をシビアに行ったので、グループ内での生産性を向上させるための準備ができた印象です。
- ②グループからの成果としての討議内容でも、活発な議論（=コミュニケーション）が町長ともできたのでよかったです。
- ③参加者の最終的な満足度は不明だが、町との心理的な距離は少し縮められた印象です。

5. 今後の課題と取組み方針



今後の課題としては「継続的に企業リンクを開催する」ということだと思います。一回きりの開催は今回の会が無駄になってしまいます。また、リンクということですので、より多くの企業様に参加いただくよう、「バラエティーに富んだテーマ設定」を行うことが大切です。今回と同じテーマでの討論をしてもいいと思いますし、より若いメンバーだけを集めて、キャリアアップやコミュニケーションなどのテーマで研修形式、講演会形式などで主催することをお勧めします。そして「SNS発信力や町おこし、地域新規産業などを検討するようなワークショップを主催するのも面白い会になる」と思います。



総合計画共創プロジェクト

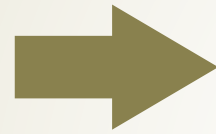
【複業タレント】 早川延寿氏

報告者：総合政策課 課長補佐 奥田好志



1. 課題認識

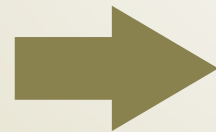
総合計画が総花的なものになってしまいがち



住民も職員も総合計画と地域づくりのつながりをイメージしにくい

2. 目標設定

「総合計画をどのように展開すれば持続可能な地域づくりにつながるか」を整理する。



総合計画で地域共創を考える

3. アプローチ

ミーティングの過程で「分析の手法」や「考え方を整理する上プロセス」「まちづくりの方向性」などについてアドバイスをいただきました。ミーティングでは町の考え方を発散的に引き出していただき、それに対してアドバイスや提案を受け、さらに整理・検討を進めることを繰り返しました。



川西町長 小澤晃広
と総合政策課



複業人材
早川延寿さん

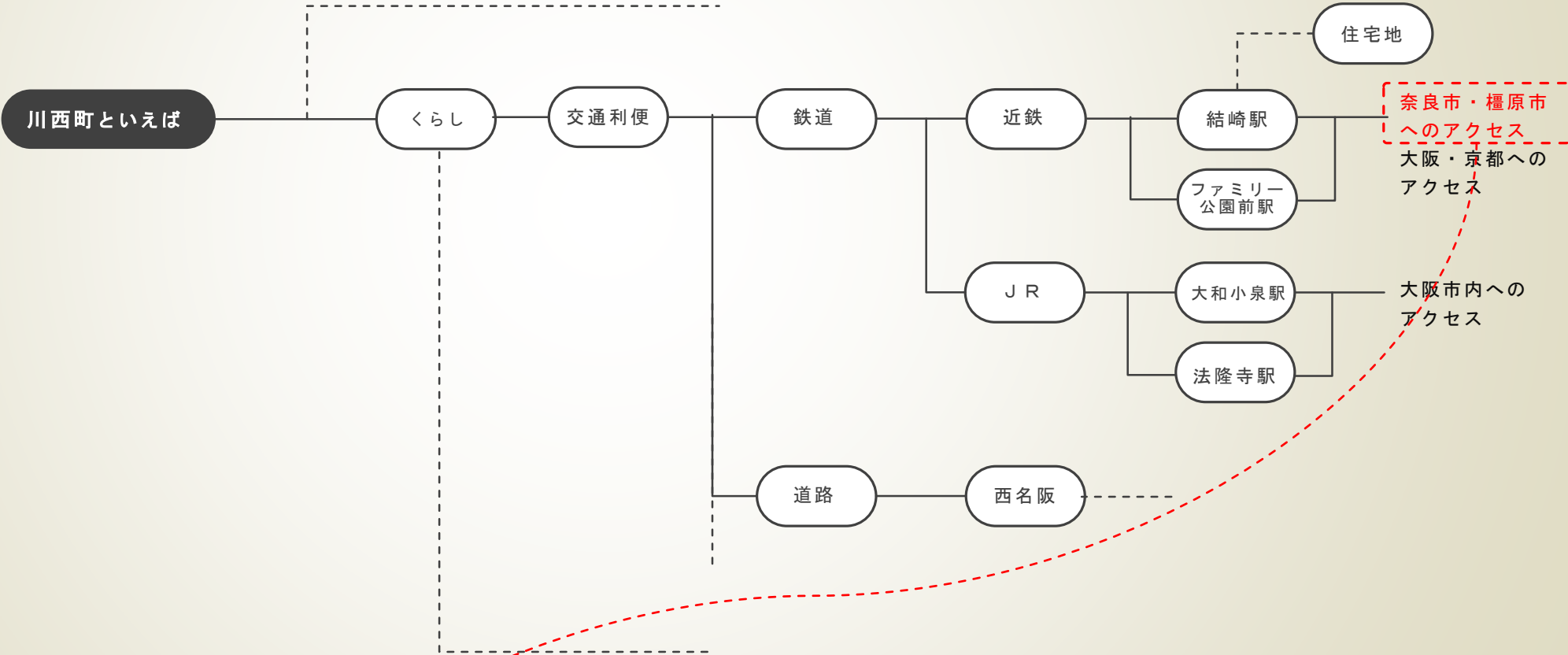
チャットツールで随時相談



Phase 1

要素の発散

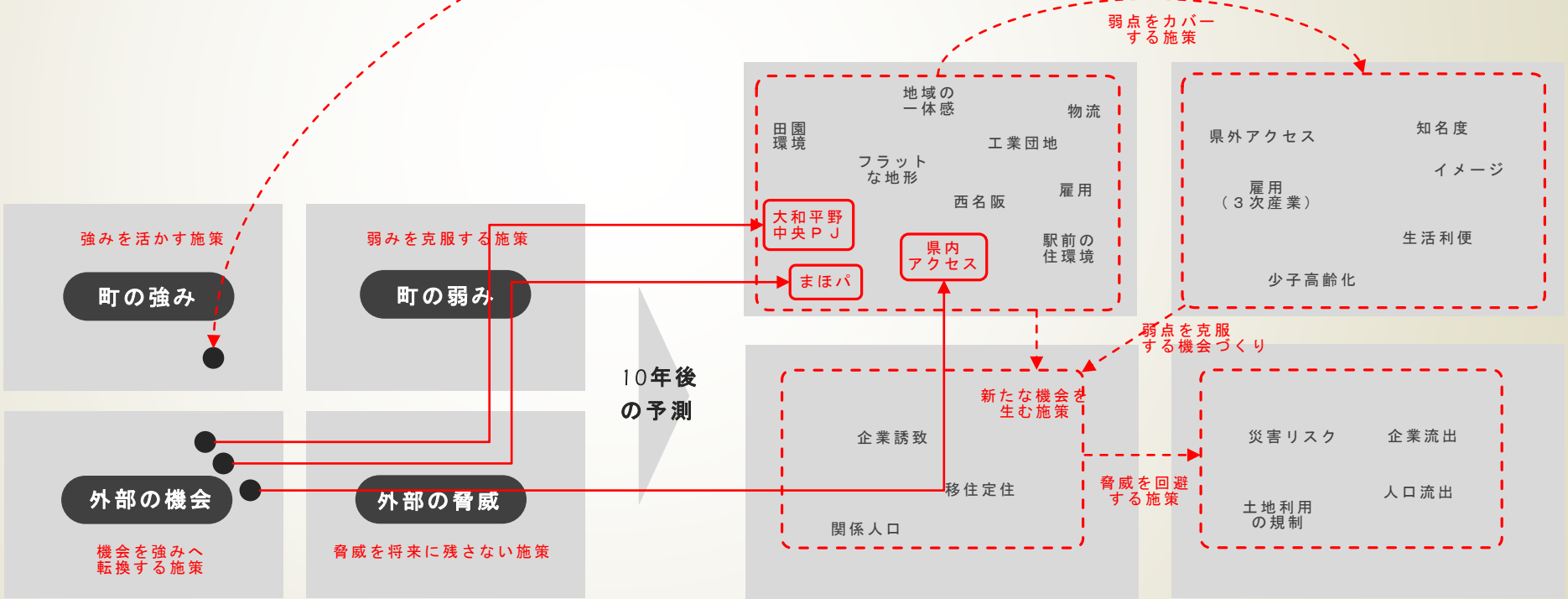
マインドマップを用いて、発散的に【現状の課題】や【関連要素】の洗い出しを行いました。住民インタビュー（タウンプロモーション戦略プロジェクトのインタビューに参加）や若手職員へのヒアリングなども参考にしています。



Phase 2

環境の分析

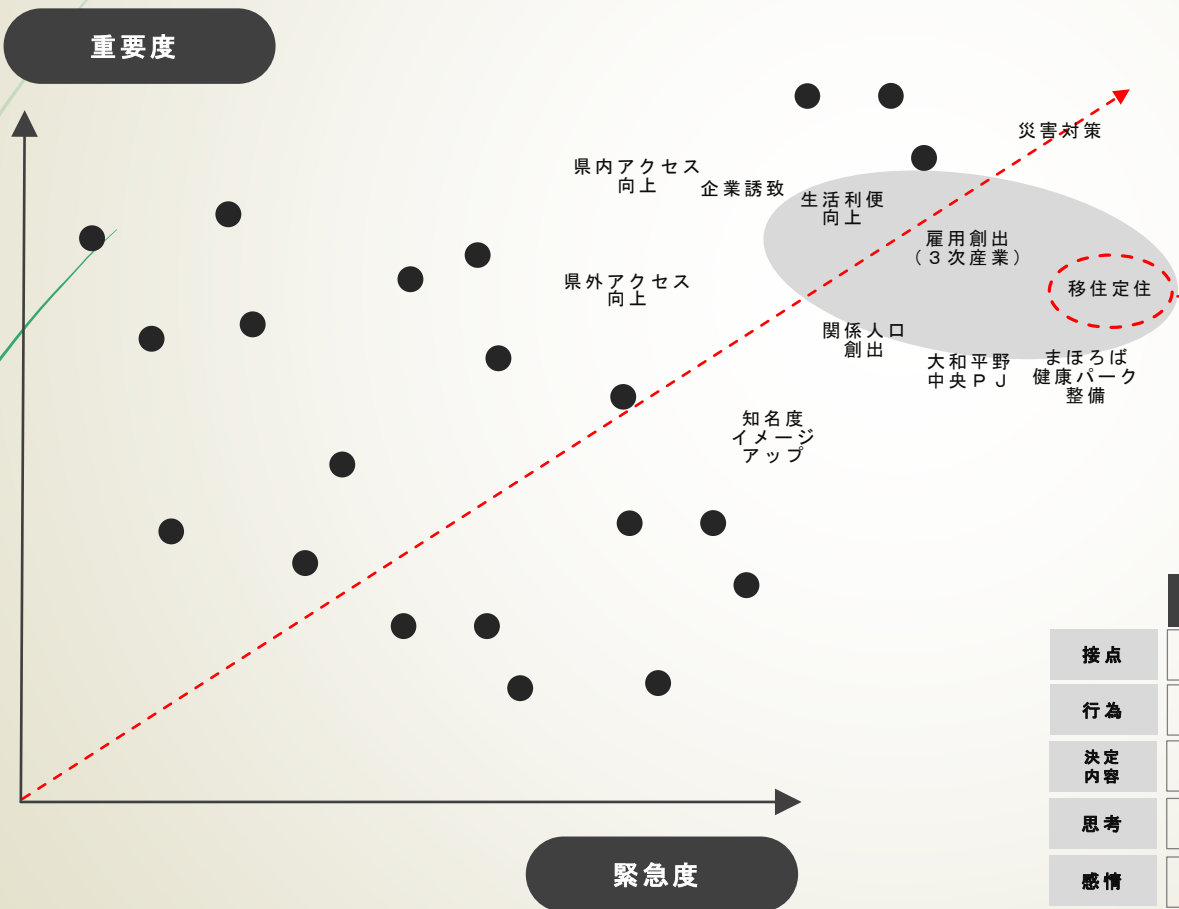
SWOT分析を用いて【町を取り巻く環境】を整理しました。さらに10年度を想定した未来版のSWOTを分析することで、要素の変化や解決すべき課題を考えました。



Phase 3

課題抽出

取り組むべきことを【重要度】や【緊急度】などを軸にプロットして課題を整理しました。
あわせて生活者の視点での洞察として、インタビューやヒアリング結果からジャーニーマップを作成し感情曲線に注目しました。



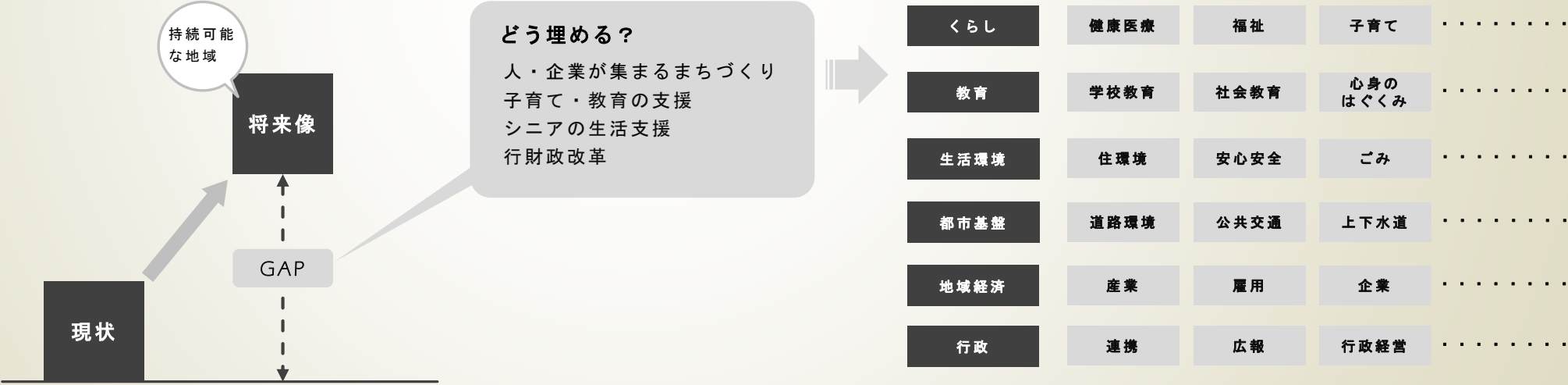
施策の一例を【住宅購入を契機とした移住定住による地域の活性化】と仮定し施策の一例として移住定住を『子育て世帯の家選び』にフォーカスしたジャーニーマップを試作。

	契機・認知	情報収集	行動	検討	意思決定
接点					
行為					
決定内容					
思考					
感情					
打ち手					

Phase
4

施策を検討

【バックカスティング】として、現状と未来の間にあるギャップをつなぐ施策を考え、抽出した【ソリューション】案をグルーピングする作業をしました。

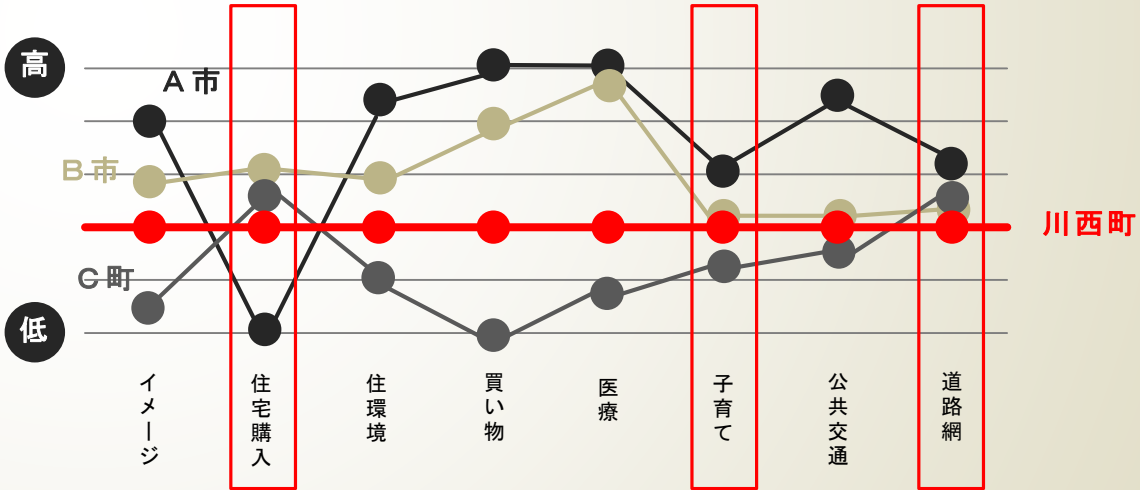


Phase 5

選択と集中

独自の価値、独自のやり方を見出したり、注力の仕方を検討したりするため【戦略キャンパス】を活用しました。

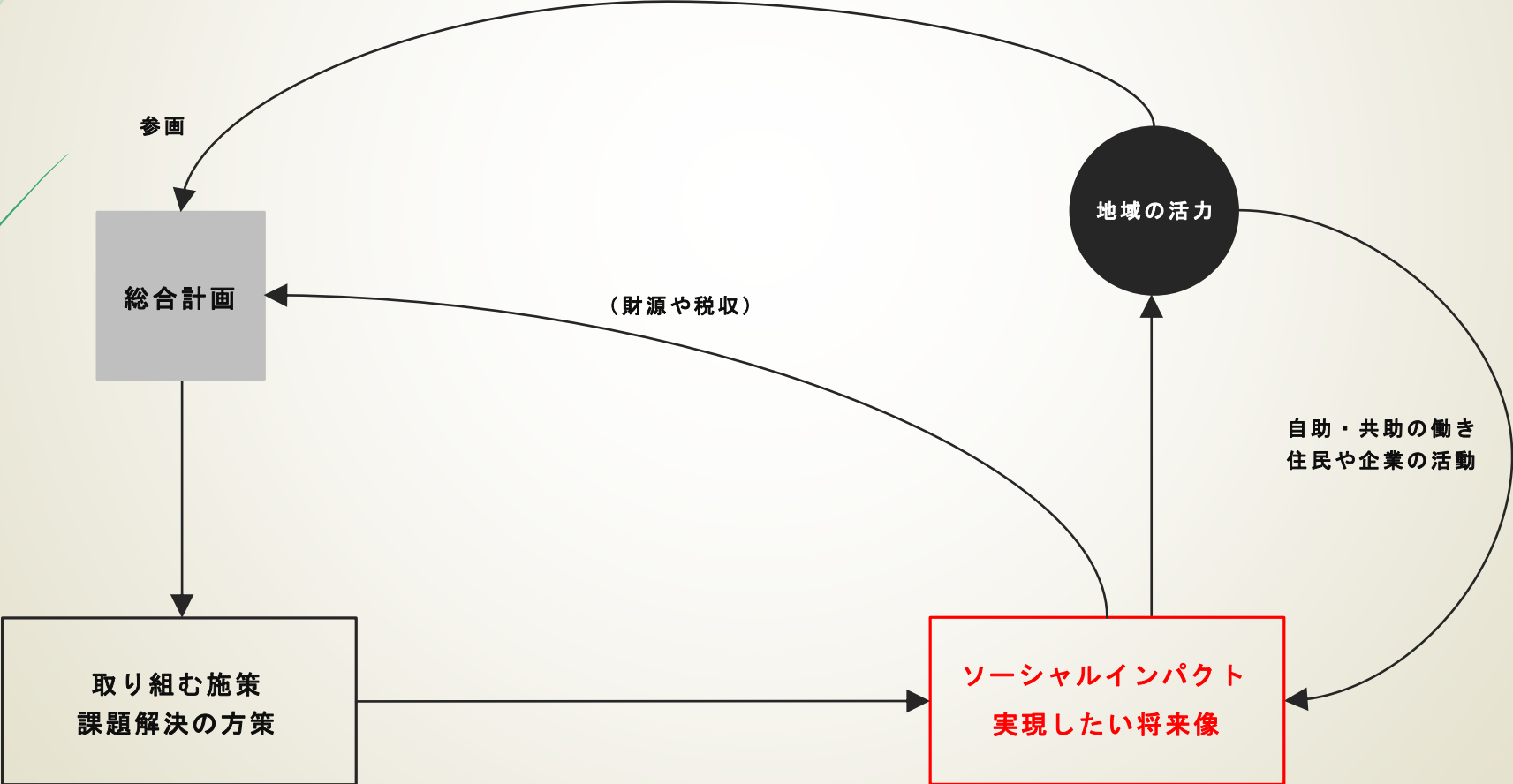
川西町施策の一例として移住定住を設定。
『子育て世帯の家選び』にフォーカスして、川西町と周辺市町村の比較を戦略キャンパスで分析しました。
自動車による県内移動の利便性（道路網）、子育て環境が他市町村と差がない点から、「県内企業などで働く自動車通勤の共働き世帯」への転入を促進する施策が有効なのではないかという仮説が得られました。
また、施策を立案していく上での「子育て世帯」のペルソナを「県内で働く共働き世帯」と設定することになりました。



Phase
6

変革へつなげる

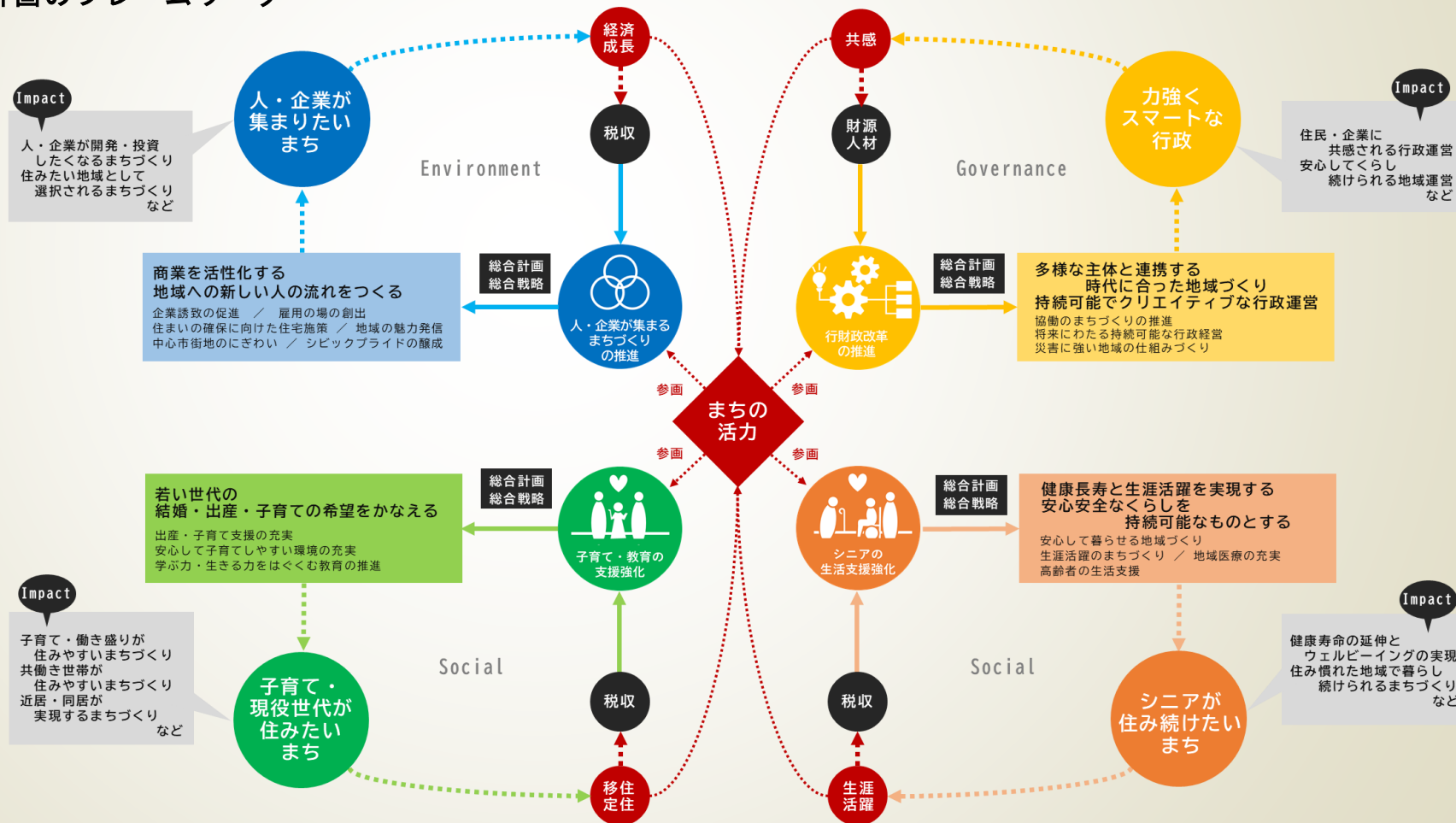
総合計画による施策案や地域を構成する要素の関連性からどのようなソーシャルインパクトを生み出せるのか、また持続可能な仕組みとしてどのように循環させていくのかを考えていくため、そのフレームワークとして【システム図】を作成しました。この【システム図】を総合計画の各種施策が地域生活の向上や発展にどのように作用していくのかを、住民や職員がともに考えていくツールとして機能すればと考えています。

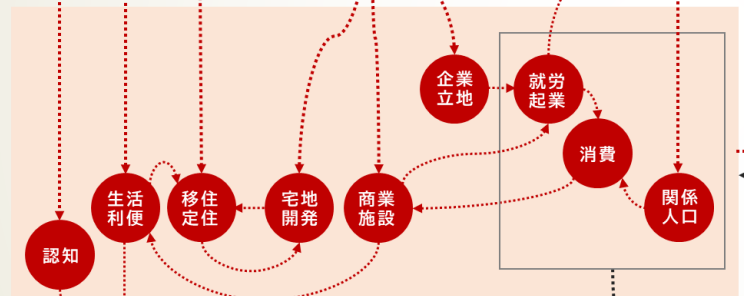
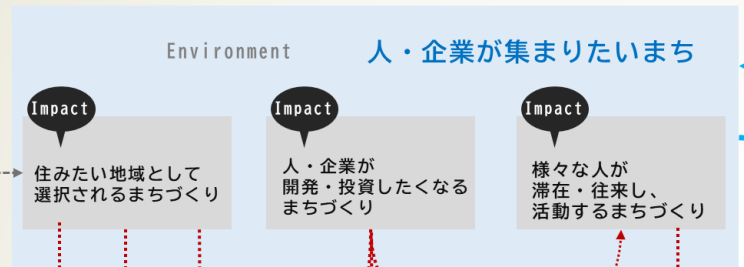


4. 成果

この図は総合計画の施策が、持続可能な地域をつかっていくためにどのように作用するかを示すものです。ここで示す内容が完成形ではなく、新しいニーズや変化への対応が生じれば、新たに書き足したり、修正を加えたりしながら総合計画のPDCAを円滑化させていきます。

地域を持続させるための循環図
総合計画のフレームワーク





商業を活性化する
地域への新しい人の流れをつくる

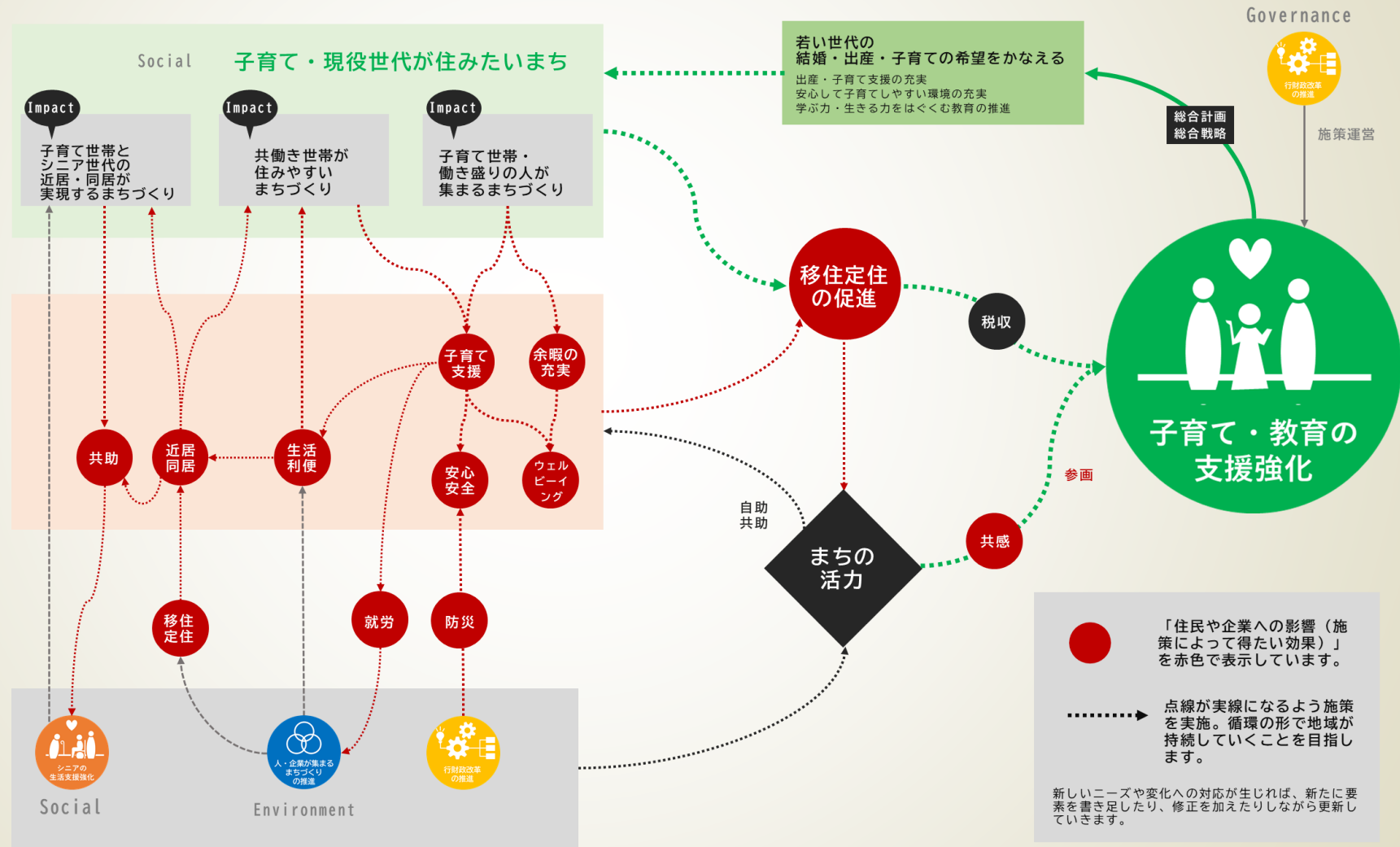
企業誘致の促進 / 雇用の場の創出
住まいの確保に向けた住宅施策 / 地域の魅力発信
中心市街地のにぎわい / シビックプライドの醸成

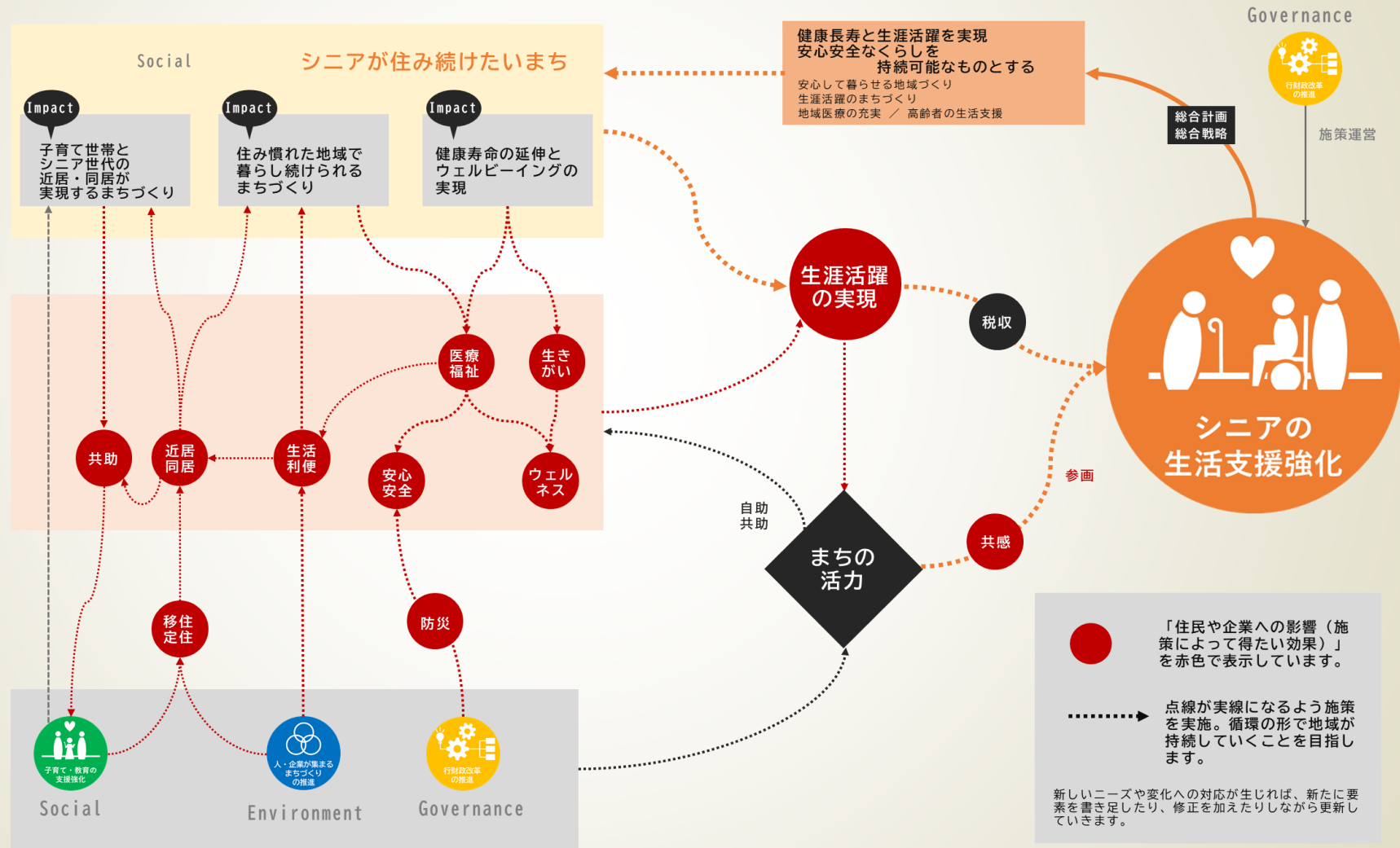


● 「住民や企業への影響（施策によって得たい効果）」を赤色で表示しています。

-----> 点線が実線になるよう施策を実施。循環の形で地域が持続していくことを目指します。

新しいニーズや変化への対応が生じれば、新たに要素を書き足したり、修正を加えたりしながら更新していきます。

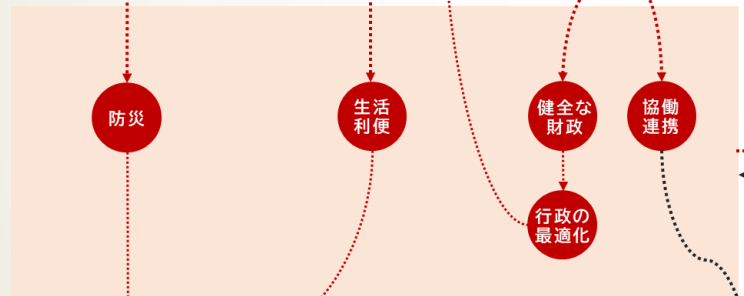






多様な主体と連携する
時代に合った地域づくり
持続可能でクリエイティブな行政運営
協働のまちづくりの推進
将来にわたる持続可能な行政経営
災害に強いまちづくり

総合計画
総合戦略



財源
人材

参画

共感

開発
投資

まちの
活力

町外
からの
活力

● 「住民や企業への影響（施策によって得たい効果）」を赤色で表示しています。

-----> 点線が実線になるよう施策を実施。循環の形で地域が持続していくことを目指します。

新しいニーズや変化への対応が生じれば、新たに要素を書き足したり、修正を加えたりしながら更新していきます。

5. 今後の課題と取組み方針

① PAINなどの感情も分析する

職員の
気づき

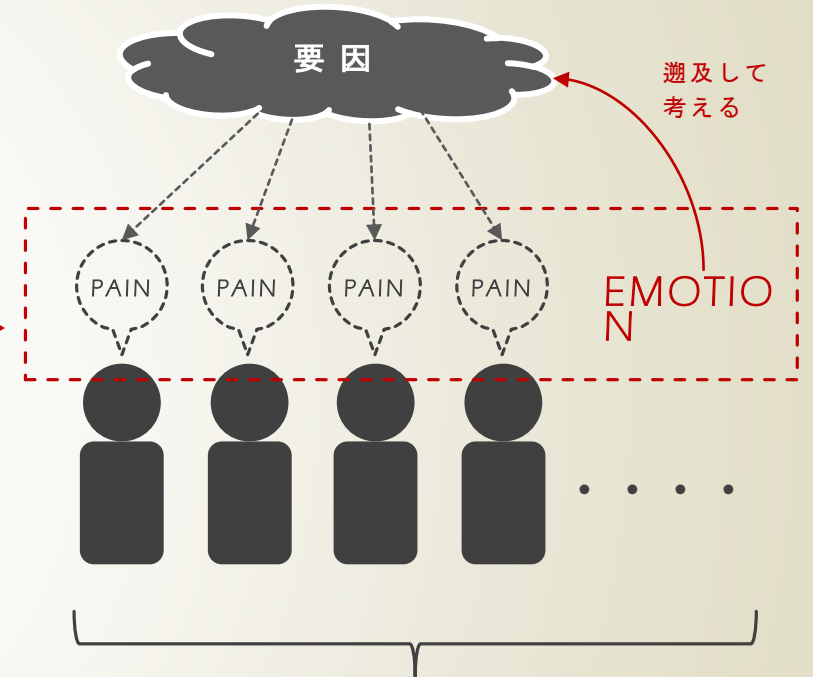
政策形成する上で、これまでは客観的な事実やデータを重視すべきで、住民個々の感情に影響を受けることはタブーのように考えていました。そのため早川さんから「住民の日々の暮らしの中にある感情にも注目して、その背景を分析した方がいい」という指摘は新鮮に感じました。感情を正しく汲み取って背景を洞察することは、住民との日々の関わりの中からできることなので、住民との直接的な接点も大事なことだと再認識しました。また住民に近い市町村の仕事だからこそできることだと思いました。

気づき

結果の要因となっている住民感情にも注目し、PAINなどの背景となる要因にアプローチしていくことも大事。

これまで

統計で現れる結果で施策形成の判断（これも大事！）



② 計画を活かすために地域を含めた循環の視点を持つ

職員の 気づき

地域づくりを行政だけで完結するのではなく、住民や企業の力で地域の活力が循環するように施策を考えていくことが大事だと再確認しました。漠然と認識があったことですが、早川さんからの助言をいただいたり「循環図」でビジュアル化したりする中で、腑に落ちた感じで消化できたような気がします。

また、KPIの数字だけでPDCAの「評価（C）」を済ませていると、行政の計画が「絵に描いた餅」になってしまいがちになります。循環図の中で循環が停まっている要因を分析して「評価（C）」し、必要な施策を考える「改善（A）」することが必要だという考えに至りました。

